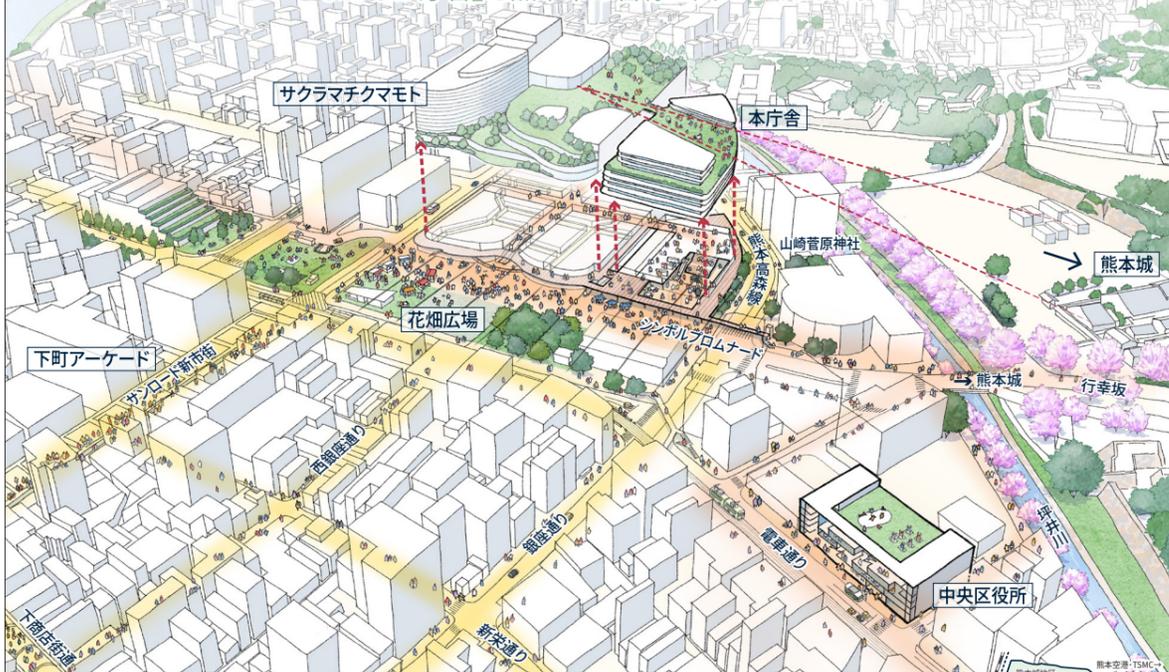


(1)熊本市が目指すべき新庁舎の在り方に関する“コンセプト”とその考え方

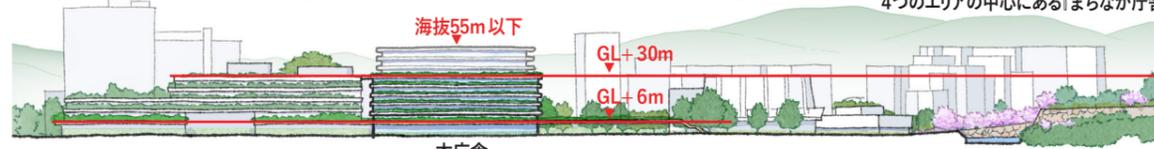
# 市民とともに『つなぐ 熊本』

熊本の「まんなか」から、「街と人」・「歴史と街並み」・「日常時と災害時」をつなぐ『まちなか庁舎』を熊本市の皆様と共に作ります。



## まちづくりの起爆剤として、新庁舎に期待される役割

- 「桜町・花畑周辺地区」は市内の4つのエリアをつなぐ「かすがい」であり、当敷地は桜町地区整備のラストピースとして、まちと人をつなぐ新庁舎『まちなか庁舎』に最もふさわしい場所です。
- 本庁舎と区役所はまちづくりのリーディングプロジェクトとして、市街地の機能更新や庁舎跡地利用なども見据えた布石と位置づけ、周辺一体となった回遊や賑わい、熊本らしい景観や活動を創出します。
- 基本構想における新庁舎の目指すべき姿や本庁舎・中央区役所建設地選定等の検討経緯、中心地区のまちづくりの系譜を踏まえ、熊本市政を未来につなぐ市民の誇りとなる庁舎を計画します。



## 目指すべき『まちなか庁舎』の6つのコンセプト

- 1 市民が集い、まちのシンボルとなる庁舎**
  - 市民参画により、市民に愛される『まちなか庁舎』
  - 「まちの大広間」である花畑広場と連携した『市役所ひろば』
  - 「景観」の取り組みを継承する高さを抑えた緑の景観づくり
  - 地場産木材などを活用する熊本らしい庁舎
- 2 中心市街地の賑わいや回遊を強化する『まちなか庁舎』**
  - まちに開かれ多様な活動・賑わいを誘発する『市役所ひろば』
  - 市街地の回遊性向上する『市役所ひろば』と『区役所テラス』
  - 本庁舎と区役所での役割分担と相互連携
- 3 まちと市民を災害から守る熊本市ンダウン庁舎**
  - 日常時と災害時でフレキシブルでフェーズフリーな安心安全の設え
  - 免震構造を念頭に置いた、確かな耐震性能
  - 重要諸室・機器を上階に設置する災害に強い断面構成
  - 桜町・花畑地区との連携によりエリア全体の防災力を向上
- 4 誰もが使いやすい、市民・職員のための庁舎**
  - 明快なゾーニングで分かりやすい窓口と働きやすい執務室
  - 公共交通とのアクセスを高めたウォークアブルの拠点
  - 周辺交通への影響を抑える駐車場計画
  - すべての人をやさしく受け入れるインクルーシブデザイン庁舎
- 5 ニーズに応じて変化するフレキシブル DX 庁舎**
  - 行政ニーズと働き方の変化に対応するワンプレートの大きな庁舎
  - 段階的なDX化を踏まえた区民窓口のソフトとハードの最適化
  - 将来の機能・規模の変化を受け止める自由度の高いプラン
- 6 経済性と環境対策を両立する持続可能な庁舎**
  - 適切な規模・環境性能でLCCを抑えるコンパクトなCN庁舎
  - 維持保全・修繕を最適化するDXと長寿命建築でLCCを最小化
  - 環境技術で執務効率・快適性を向上する庁舎

## 『まちなか庁舎』のコンセプトを実現するための基本計画の考え方

**本庁舎の考え方**

- 熊本市庁から熊本城への眺望確保とサクラマチクモトの屋上庭園との一体化検討
  - 熊本城がよく見える、階高を抑制した建物ボリューム
  - 熊本城を望む『芝生広場』と『展望キャリヤ』
- 大きな1フロアの執務スペース
  - 多様な働き方やレイアウト変更が容易な執務スペース
  - 奥行きが深い執務スペースに自然光と風を導く『エコヴォイド』
  - 職員のコミュニケーションを活性化する随所に設けた階段
- 災害対策機能を3階に集約
  - 災害対策の本部や災害対策スペースを集約化
  - 直下階の『市役所ひろば』(災害支援スペース)との円滑な連携
- バスターミナルとつながる回遊動線
  - サクラマチバスターミナルコンコースと『市役所ひろば』、2階を接続し市民のアクセス、利便性を向上
- 花畑広場と一体で利用できる『市役所ひろば』
  - 花畑広場のない屋根のある市民活動広場
  - 災害時には一時避難、支援物資の受入、罹災証明書発行のスペース
  - 図書や飲食、コンビニなどの利便施設が市民活動をサポート
  - 地域企業や商店街が情報発信できる『コンソーシアムスペース』
- 交通への影響を最小限にする駐車場計画
  - 交通量調査に基づいた駐車場の出入口の位置検討
  - 辛島公園地下駐車場への接続を検討

**本庁舎の断面構成イメージ**

**中央区役所の考え方**

- 熊本城を望む『展望テラス』
  - 熊本城を望む市民の憩い場として屋上を市民に開放
- 市民のための『区役所テラス』
  - 電車通り側のゾーン、会議室を『区役所テラス』として市民に開放
  - 休日や夜間も開放できる明確な管理区画
- 大きな1フロアの執務スペース
  - 多様な働き方やレイアウト変更が容易な執務スペース
- 市民窓口を集約配置
  - 区民に分かりやすく窓口を集約化
  - 水害のおそれのない2階に窓口を設置検討
  - DX化に対応するフレキシブルな窓口
- 駐車場をコンパクトに集約
  - 市民が利用しやすい平面駐車場
  - 建物のわかりやすい構成と動線の実現

**本庁舎の平面構成イメージ**

**中央区役所の断面構成イメージ**

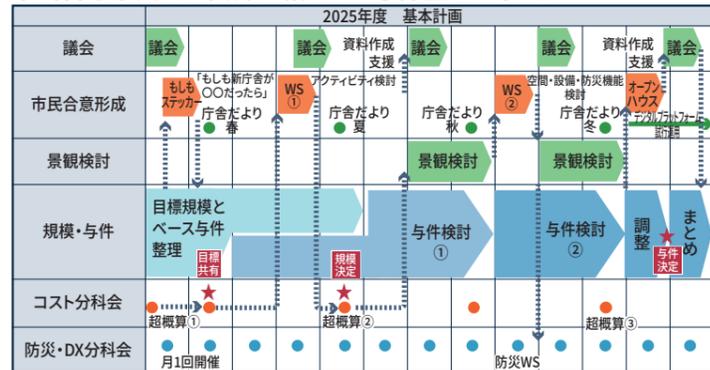
(2) (1)で提案したコンセプトを基本計画において、具現化するために重視する観点とその手法(市民等との合意形成の手法含む)

## 基本計画から実施設計までを通して、着実に無駄のない与件整理と業務推進

### 基本計画で重視する5つの観点

- POINT 1 市民・庁内・議会との合意形成**  
市民WSで収集した意見を起点に、専門領域毎の分科会で議論し、市民と議会に発信・報告。丁寧な合意形成を重視。
- POINT 2 熊本らしい景観づくりと庁舎のイメージづくり**  
本庁舎と区役所に共通する熊本らしいデザインを重視。
- POINT 3 災害の教訓を活かした防災減災対応**  
過去の災害を踏まえた防災対策指針を実践する災害対策施設。
- POINT 4 DXを踏まえた的確な規模・与件整理**  
DXを検討する別業務と連携し、適正な執務面積を与件化。
- POINT 5 市況を踏まえた建設コスト目標の共有**  
最新の庁舎発注実績と弊社の市況分析に基づく、目標予算の共有。

### 市民合意形成と超概算を軸とした与件整理の手法とフロー



### 検討の初期段階から定期的な情報発信と市民参画の場を設け、幅広い意見を収集し計画に反映

・情報発信・ワークショップ・体験価値創造等の企画を専門とする弊社のコンズチームと連携し、市民の幅広い意見を収集する様々な手法を検討します。

#### 庁舎だよりの定期発行

市民への検討状況周知・理解促進のため市政だよりに定期的に情報を掲載。HPにもQ&Aと共に掲載しいつでも見られるようにします。

#### まちの声を拾う「もしもステッカー」

「もしも新庁舎が〇〇だったら?」検討の初期段階で新庁舎に対する市民ニーズを広く集める取組です。限られたWS参加者に留まらない幅広い意見を集めることができると同時に、WS参加者の議論も活発になる効果があります。



#### オープンハウスの開催

公共の場にポスターや模型・動画等を展示します。パブコメや説明会に比べ時間や対象を限定せず、より多くの市民意見を収集できます。



(3) 基本計画を設計に反映させるために重視する観点とその手法(市民等との合意形成の手法含む)

## 市民意見を反映する十分な議論・検討ができるWS・分科会と市民への情報発信

### 基本計画を設計に反映させるために重視する5つの観点

- POINT 1 的確で分かりやすい手法による合意形成**  
WSやオープンハウスの他、SNSなども組み合わせ、広く市民意見を収集。VRなどを用い、直感的に理解できるメディアも活用。
- POINT 2 景観審査での十分な議論**  
有識者の助言を設計に反映し、3Dモデルやムービーを用いて市民に発信。
- POINT 3 『防災分科会』を通じた議論の深化と市民への発信**  
『防災分科会』にて貴市の防災思想を計画に反映し、市民に発信。
- POINT 4 与件を実現する技術的な検証**  
基本計画の与件を豊富な実績と技術力により、確実に基本設計に反映。
- POINT 5 建築市況を定期的に共有し発注戦略を立案**  
定期的なコスト分科会で、市況を踏まえた発注方式を柔軟に立案。

### 合意形成の手法とフロー



### 市民が具体的な空間や使い方をイメージでき、より良い庁舎の運用のために継続的に市民の意見を反映できる場を検討

・将来的な変化にも柔軟に対応できる庁舎を目指し、設計段階から竣工後も継続して運用に関する市民意見の収集や合意形成の手法を検討します。

#### サウンディング調査・実証実験

「庁舎低層部等利活用可能性調査」と連携し、職員や市民団体等が実施するプログラムやイベント等に関するヒアリング・実証実験を通じて空間や機能に対する課題・意見を抽出します。

#### 継続的な意見収集が可能な「デジタルプラットフォーム」の導入

計画～運用段階までシームレスに利用者(市民・職員)からの課題や意見を収集するために、竣工後も理想の空間・使い方を旨とした継続的なアップデートが可能なデジタルプラットフォーム(「Decidim」や「my groove」等)の導入を検討します。検討過程や要望リストの公開、アンケート等を行うことが可能で、若者も気軽に参加することができます。



スマホで気軽に！スレッド表示で見やすい！市民同士の意見交換も！職員の働きやすさ向上にも寄与！SNS感覚で情報を得られる「デジタルプラットフォーム」

(1)建設地の災害リスクを踏まえた地震・洪水等の災害時の安全性、業務継続性を確保するためのハード・ソフト両面での考え方と検討の進め方

考え方

「地域防災計画」「業務継続計画」「受援計画」「エリア防災計画」を確実に実践する熊本式ノンダウン庁舎

- 2016熊本地震の経験をふまえ、貴市が定めた防災指針に基づき、「予防計画」⇒「応急対策計画」⇒「復旧・復興計画」のフェーズに分けて、計画のハード・ソフトの安全性と業務継続性を検証します。
- 地震・洪水だけでなく、あらゆる災害で発生するリスクを想定し、業務継続のためのハード対応を費用対効果を考えながら決定します。
- 「桜町・花畑地区エリア防災計画」と連動し、帰宅困難者を受け入れるエリア防災に対し、庁舎は災害対策拠点としての業務継続に集中できるよう、明確な役割分担を検討します。
- 非常時にあらゆる受援を受け止め、桜町・花畑地区エリアとも連携できる多目的な空間を花畑広場と連続する1階の大きな軒下空間『市役所ひろば』を設けることを検討します。



新庁舎における事業継続性確保の考え方

検討の進め方

予防から復旧・復興までのフェーズごとに必要な災害対策を整理し、整備方針を決定

- 「業務継続計画」を確実に実行するため、予防・応急・復旧・復興のフェーズで必要な対策手法を体系化した『災害対応マトリクス』を作成します。
- 豊富な防災庁舎実績の知見に基づき、防災性能の優先順位を見える化しながら、貴市と共に災害対策拠点の与件を整理・決定します。
- 平時においても災害時の避難シミュレーションや浸水マップなどの情報を発信し、市民防災力を向上する防災学習の場として『市役所ひろば』を検討します。

	予防	応急	復旧・復興	
地震	□構造形式 □スケルトン天井 □自家発電設備 □電力、通信の多重化	□衛星通信の導入 □太陽光発電設備 □緊急車両駐車場 □防災訓練	□防災拠点 □一時避難場所 □防炎天井 □マンホールトイレ	□防災拠点 □自然換気システム □炊食の備蓄 □防災支援窓口 □復旧支援窓口 □復旧証明の発行 □炊き出し
洪水	□主要機器の上階配置 □ヘリポート	□避難場所の周知 □建物の高床	□垂直避難場所 □炊食の備蓄 □防漏板	□リエゾン受入 □支援物資受入 □ボランティア受入 □炊き出し
ゲリラ豪雨	□1階レベルのかさ上げ	□防漏板		
パンデミック	□自然換気システム □パーテーション	□マスク、防護着の備蓄	□ワクチン接種会場 □感染症対策窓口	

災害対応マトリクスのイメージ

予防時の対応

災害リスクに備えた、安全で費用対効果の高い予防対策

1. 地震リスクに対するハードの対策

- 液状化リスクを低減**  
NTT 桜町ビルの既存杭存置を検討し安全性と経済性を両立させます。
- 総合耐震クライテリアの導入**  
建設地特有の模擬地震動(サイト波)作成、過去の地震データを参照し、建築基準法やそれを上回る地震に対して耐震性能を検討します。  
構造体および非構造体に対して、様々な地震レベルにおける耐震性能や損傷レベルを明確にした耐震設計を行います。

■本庁舎、区役所の役割に応じた構造計画

- 本庁舎は災害対策拠点となるため免震構造を有力候補とし、経済性、維持管理、外観など総合的観点から免震層位置やシステムを検討します。
- 区役所は経済性などを踏まえ耐震・制振・免震構造を比較検討します。

2. 浸水リスクに対するハード対策

- 浸水レベルを3段階に分け、①ゲリラ豪雨(約+0.2m)及び②内水氾濫(約+0.5m)は1階レベルのかさ上げや防潮板設置により対策します。③河川氾濫(約+3m)には、重要機能・重要諸室を2階以上の設置を検討します。
- 区役所の個人情報扱う窓口は、浸水のおそれのない2階設置を検討します。
- 洪水対策の視点からも免震層の配置計画や免震装置の種類を検討し、地震対策と洪水対策の整合を図ります。

構造形式	耐震構造		制振構造		免震構造	
	基礎免震	1階柱頭免震	基礎免震	1階柱頭免震	基礎免震	1階柱頭免震
構造概要図						
耐震性能	○	○	○	○	○	○
地震後復旧	×	○	○	○	○	○
経済性	○	○	○	○	△	△
空間自由度	×	△	○	○	○	○
洪水対策	○	○	○	△	○	○

構造形式の比較

応急時の対応

確実に災害対策拠点機能を維持するノンダウン庁舎を検討

1. ハード対策

- 災害対策の拠点として、発災・インフラ途絶時に少ないエネルギーで庁舎機能が自立・維持するよう、自然エネルギーの活用を検討します。
- 弊社独自の『被災度判定システム』があり、加速度センサーにより、地震時の被災度判定を瞬時に行うだけでなく、躯体損傷や非構造材の被害を精度良く把握し、次の地震に備えた合理的な復旧計画に活用できます。
- 隣接するサクラマチクマモトとの垂直避難の共有、災害対策本部機能のバックアップ施設としての熊本城ホールとの連携を検討します。

2. ソフト対策

- 既存の「くまもとアプリ」と連携し、『市役所ひろば』を災害情報の発信拠点として、サイネージで被災情報や支援情報をリアルタイムでの共有できる場とすることを検討します。



復旧・復興時の対応

「くまもとアプリ」の活用

様々な支援を受け入れエリアの防災力も高めるパブリックスペースを検討

1. ハード対策

- 外部支援組織を受け入れるリエゾンスペースは、災害対策本部との連携や外部からの出入ししやすい低層部に配置することを検討します。
- 復旧の状況に応じて本庁舎・区役所で窓口機能やリエゾン機能等を役割分担できる柔軟な建築計画を検討します。

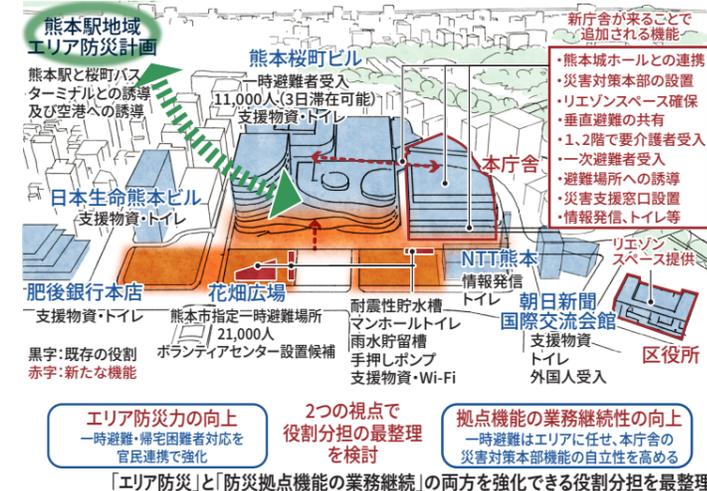
2. ソフト対策

- 『市役所ひろば』では、支援物資やボランティアの受入、罹災証明発行スペースなど、多目的に利用できるように検討します。
- 応急・復旧・復興時における「エリア防災計画」と本庁舎の相互扶助の役割分担を再検討します。

インフラ途絶時：7日間の維持を行うための手法

自然エネルギー	・停電時、市民利用可能な太陽光発電電力を『市役所ひろば』に供給 ・断水の長期化に備え、市水に頼らない井戸水の利用 ・自然換気による室内換気計画
電力	・電力インフラ引込を多回線化し、電力引込の強強化 ・停電時、7日間災害対策拠点としての機能維持できる自家発電設備を導入
通信	・通信インフラ引込を多回線化し、通信引込の強強化 ・通信インフラ途絶時に対応できる衛星通信を導入
上下水	・断水7日分の水槽計画、飲用水備蓄計画 ・下水断絶7日分の緊急排水槽の計画
空調換気	・停電時、重要機能室の空調換気設備は別系統とし、自家発電電力供給

BCP性能の検討事例



(参考資料4)

(2)災害対応の司令塔となる防災拠点機能の充実と円滑な災害対応ができる空間構成の考え方と検討の進め方

考え方

独立性と拡張性のある災害対策拠点と様々な支援活動ができるパブリックスペース『市役所ひろば』



防災拠点の司令塔となる災害対策本部の高いセキュリティの維持

- 災害対策本部は3階に、災害支援スペースとなる『市役所ひろば』は、1階に設け、災害対策本部と災害支援スペースの活動が交わらない階構成を検討します。

日常の設えが災害対策拠点に早変わりするフェイズフリー庁舎

- 『市役所ひろば』が『災害支援スペース』『復興支援窓口』に、『会議室』が『災害対策本部』や『リエゾンスペース』に早変わりするなど、日常の利用と災害時の利用のフェイズフリーを検討します。

災害規模に対応する、可変性のある災害対策本部

- 災害対策本部は、リエゾンスペースを兼用する低層部の『市役所ひろば』との連携を重視し、その上階への設置を検討します。
- 大きなワンプレートの執務室の構成を活かし、災害レベルや災害種別に即してフレキシブルに規模を拡張できる災害対策拠点を検討します。
- 「レベル5(最大1/3程度の職員)」までは3階にまとまって配置、「レベル5強化(全職員)」の場合でも2フロアに集約することで、連携の取りやすい本部機能を検討します。
- 特別職ゾーンをはじめとする、危機管理ゾーンに会議室を隣接させ、拡張性の高い災害対策本部とします。またその他の会議室は防災会議室、情報収集・分析スペースなどに転用できる計画とします。

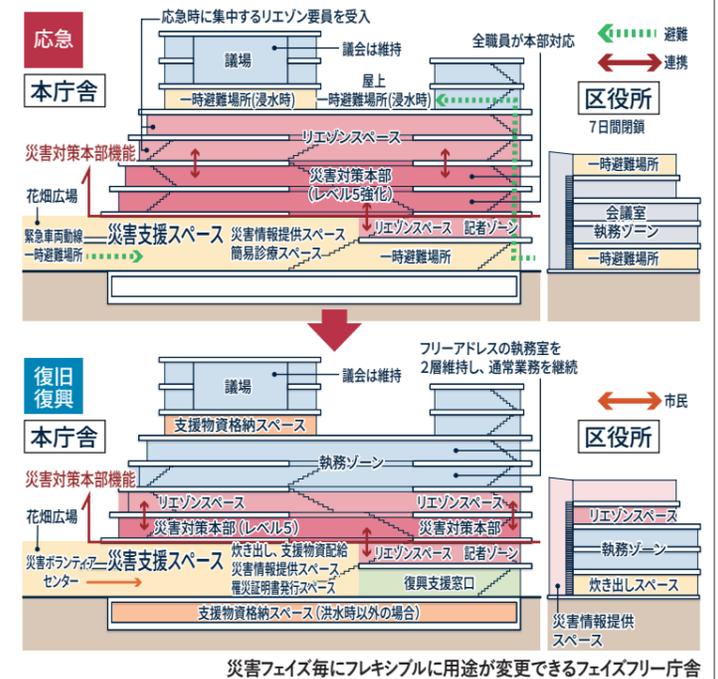
様々な災害支援スペースとなる『市役所ひろば』

- 低層部の『市役所ひろば』を、花畑広場と連携して、災害支援活動を行う緊急車両の乗り入れが可能な軒下空間として検討します。
- 屋内の『市役所ひろば』は、外部とつながり内外一体的に様々な支援活動に活用することを検討します。
- 『市役所ひろば』に面する飲食施設で炊き出しを行うなど、日常の設備インフラを災害時に活用することを検討します。
- 『市役所ひろば』前の大きな半屋外の軒下空間をパンデミック時のワクチン接種会場としての利用することも検討します。

検討の進め方

防災拠点の与件を確実に整理する『防災分科会』

- 各種防災指針を確実に実現するため、必要となる機能、規模、配置などの与件は、関係各課へのヒアリングを基に、関係各部署の意見を集約する『防災分科会』を通して『熊本市ならではの防災拠点』の方針を整理します。
- 上記の方針を専門家へのコミショニングを通じて検証する体制づくりを検討します。
- 予防、応急、復旧・復興の段階で必要となる人的支援・物的支援・外部組織との連携の為のスペース、配置を検討します。
- 災害時の『市役所ひろば』および『区役所』での被災者対応について、WSや職員及び専門家へのヒアリングを踏まえて検討していきます。

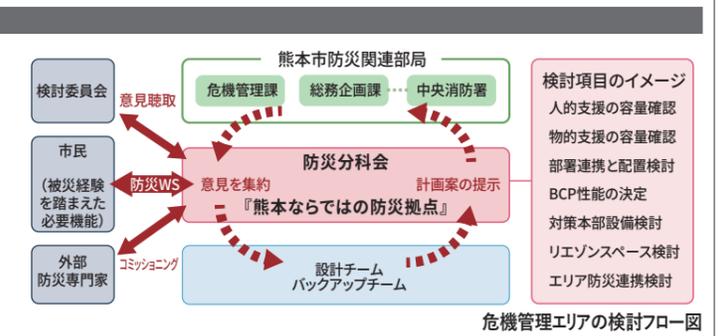


内部組織と外部支援組織の連携を重視した階構成とゾーニング

■リエゾンに必要なスペースの検討

- 応急対策段階から復旧・復興段階までの災害フェイズ毎に必要な、国や県、公共機関、自衛隊などのリエゾンスペースの機能的配置、適切な規模を検討します。
- リエゾンスペースは、花畑広場からアクセスが容易な低層部の執務室や会議室の利用を検討します。
- 近隣施設と連携による受援性能向上  
バスターミナルに隣接していることを最大限活用し、人や物資が災害拠点へスムーズに供給・支給できる動線を検討します。
- 交通インフラの要となるバスターミナルを利用しながら、サクラマチクマモトの2階車寄せを利用した各種支援物資の受け入れと『市役所ひろば』との連携も検討します。

連携を重視したゾーニング検討



危機管理エリアの検討フロー図

(1)来庁者にとって快適で利便性が高く、職員にとって効率的な業務遂行が可能な庁舎、さらにはDXの進展や行政ニーズの変化等に柔軟に対応できる可変性の高い庁舎を実現するためのゾーニング、動線・レイアウト、ユニバーサルデザインについての考え方や検討の進め方

考え方

多様な来庁者の新たな交流と体験を生み出し、職員が誇りをもって働ける本庁舎・区役所

- 本庁舎は、市民のための『市役所ひろば』と執務・議会ゾーン、区役所は、窓口を持つ執務ゾーンとして、役割を明確にします。
- 時代の変化と共に多様化する行政サービスや職員の働き方改革、業務効率化を背景に、窓口や執務スペースのみならず庁舎のあり方が大きく変化していくと考えられます。その実現のためにDXを有効に活用できる本庁舎・区役所のあり方を検討します。

- 市民・職員だけでなく多様な人々が出会い、新たな発見を体験する場をつくり、地域産業の活性化や新たな活動を育む、市民・職員の誇りとなる庁舎をつくりたい。またそれにより、将来の熊本市を担う人材確保につなげます。
- 本庁舎・区役所共にユニバーサルデザインはもちろんのことDEIにも配慮し、誰もが使いやすいインクルーシブデザインを実現します。(複数言語のサイン計画、LGBTQトイレ、カームダウンルーム等)

本庁舎に対する考え方

明快なゾーニングで誰もが使いやすい庁舎計画

- 1,2階を市民交流スペースとなる『市役所ひろば』、3~6階を『執務ゾーン』、7~9階を『議会ゾーン』とする明快でわかりやすい構成を検討します。

すべての市民と来街者の玄関となる『市役所ひろば』

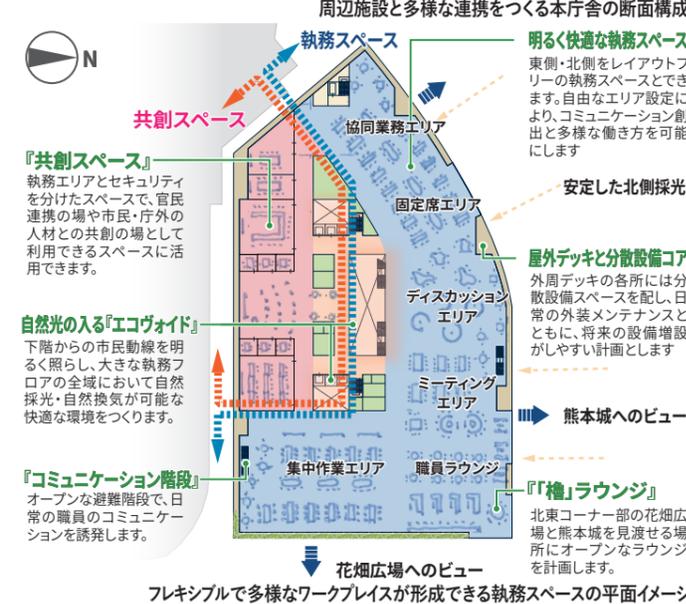
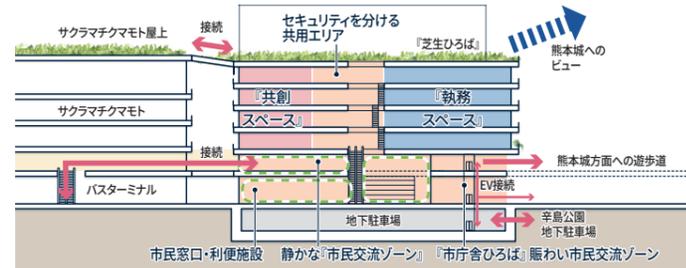
- 『市役所ひろば』が本庁舎の玄関となり、花畑広場に加え1,2階でサクラマチクマモト、バスターミナル、地下1階で辛島公園地下駐車場が接続する利便性の高いアクセスを検討します。
- 『市役所ひろば』の1,2階は、大階段とエスカレーターで結び、上層階の執務・議会ゾーン・屋上広場へは、エレベーターでも直接アクセスできるわかりやすい動線を検討します。
- 『市役所ひろば』から上層階が見える吹き抜けを設け、庁舎の案内性を高めます。

ウェルネスでコミュニケーションの良い執務スペース

- 職員の多様な働き方を実現し、コミュニケーションを活性化するために、3~6階の執務スペースは可能な限り大きな1フロアとします。
- DX化の進歩により、部署ごとの座席配置から課題解決型の座席配置に変わるなど、業務形態が大きく変化するのを想定し、様々な働き方、家具レイアウトの変更に対応するユニバーサルな執務スペースを検討します。
- 奥行き深い執務スペースの中央に自然の光と風を導くエコヴォイドを設け、快適で災害に強い執務空間を検討します。
- 各階を結ぶ階段を執務スペース内に分散配置し、コミュニケーションの向上を検討します。
- 民間企業や大学との協働・連携の場となる共創スペースを検討します。
- 執務スペースと来庁者ゾーン(共創スペース)を明確に区分し、情報管理に優れた庁舎を検討します。
- 職員の福利厚生スペースなどを適宜配置し、ウェルネスな執務環境を検討します。

質の高い行政サービスを実現するDX手法と計画への反映

- 豊富なDX業務で得た知見を活かし、質の高い行政サービスを実現する執務のあり方の検討を支援します。
- 書類電子化・ペーパーレス化・会議室予約システム導入などにより生まれるスペース効率化と連動した平面レイアウト検討を行います。
- フリーアドレス・ABW・リモートワークの導入など、多様な働き方の実現する場を検討します。
- 様々なセキュリティ手法により執務ゾーンの会議室などを市民とシェアするなど有効なスペース活用を検討します。
- 将来的な社会情勢の変化やDX化による省スペース化により生まれる余剰スペースを用途変更ができる汎用性の高い建築計画を検討します。
- 『市役所ひろば』に行政サービスの出張窓口を配置検討します。



区役所に対する考え方

区役所計画のポイント

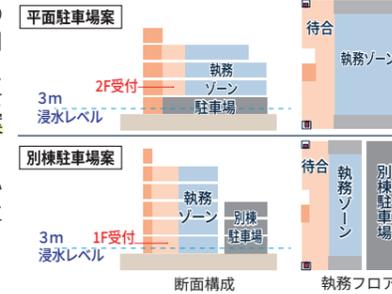
- この敷地に於ける区役所の計画は、駐車場配置が大きな計画のポイントになります。
- 上記を踏まえ、わかりやすい窓口とフレキシビリティの高い大きな1フロアの執務スペースを重点課題とし検討します。

本庁舎と区役所の往来のしやすさの検討

- 本庁舎と区役所を往来しやすくするため、2階レベルでサクラマチクマモト、本庁舎を経由し、熊本高森線を横断する歩道デッキの設置の可能性を検討します。
- ウォークアブルな歩道の整備に先がけ、本庁舎と区役所を結ぶ歩道を示す案内性の高い舗装デザインやサインを検討します。

利用しやすい駐車場と市民窓口の配置検討

- 駐車場の配置は、来庁者の利用のしやすさや市民窓口の階、執務スペースの大きさ、浸水レベル(洪水)、採光を踏まえ、1階設置案、別棟案などを検討します。
- 駐車場からは、わかりやすい動線で、雨に濡れずに窓口にアクセスできる計画とします。



DX化で実現する市民交流ゾーン『区役所テラス』と窓口を検討

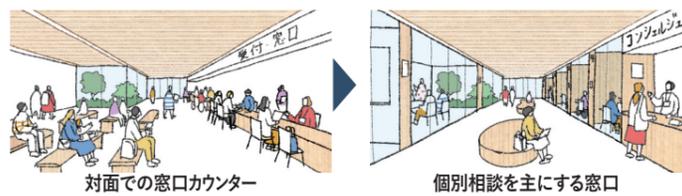
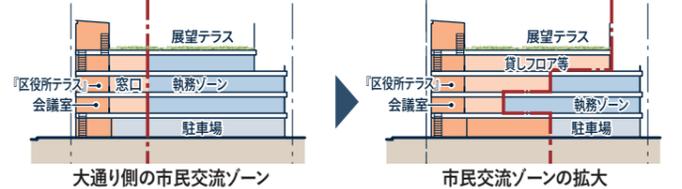
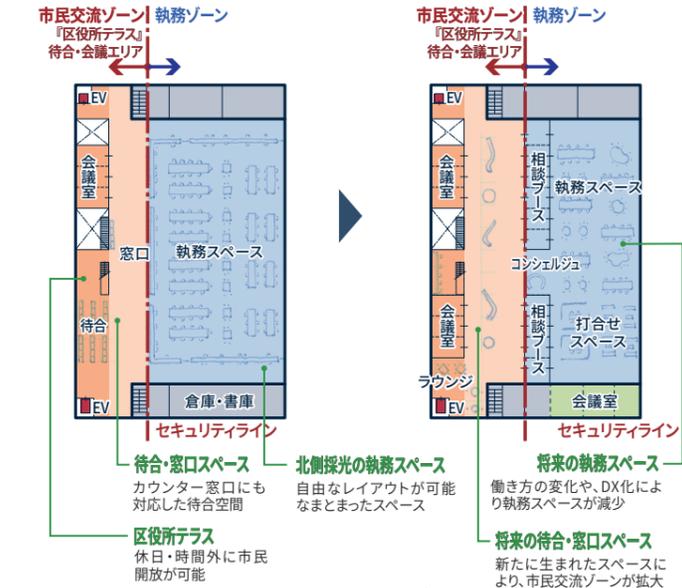
- 明確なセキュリティライン設定とDX活用により、「待合・会議スペース」を休日・夜間、市民活動にシェアする建築計画を検討します。
- 市民の交流の場となり、大通りへの賑わいの創出を検討します。
- DX化により、窓口業務が変化し、個別の相談ブースが増えるなど、将来の変化に対応できるフレキシビリティの高い窓口スペースを検討します。
- 将来の働き方の変化により生まれる余剰スペースを市民開放したり、テナントへのフロア貸し出しも想定し、アクセスを分離できるEVの2か所設置なども併せて検討します。

検討の進め方

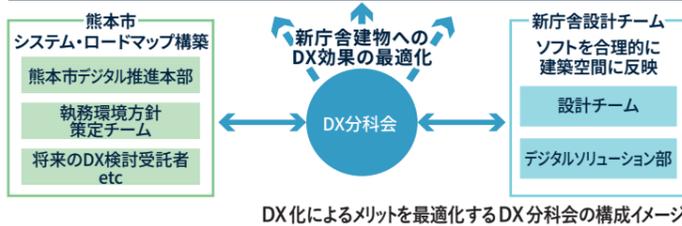
ハードとソフトが連動したDX化

- 質の高い行政サービスを提供し、将来の多様な変化に柔軟に対応できるフレキシブルな建築計画を行います。併せて、市民、職員とのワークショップなどの場を設け、民意を積極的に反映したDX化による、さらなる利便性向上の最大化を貴市と連携して進めます。
- 貴市のデジタル推進本部と建築のDX化に多くの知見を持つ弊社デジタルソリューション部、設計チームの連携を円滑に進める『DX分科会』を立上げ、DX化の目的に最大限の効果を発揮する建築計画を検討します。
- 基本計画の初期段階に、DX化の先行事例視察や他本庁舎のDX施策事例の共有やヒアリングを行います。
- 「熊本本庁舎執務環境基本方針策定業務」及び、「くまもとDXアクションプラン」と連携し、竣工時の目標スペックの決定支援を行います。

区役所構成の考え方



新庁舎の目標	市民の利便性の向上	快適な業務環境	多様な働き方の実現
DX化の目的	待たない、書かない、来ない窓口 待ち時間の削減 新スペース創出 新モビリティの利便性向上 etc	業務効率化 スペースの有効化 業務連携の促進 雑務削減 ロボットフレンドリー etc	書類電子化 セキュリティシステム フリーアドレス、ABW 等の導入 リモートワーク etc



(2)周辺の交通事情を踏まえた車両動線、駐車場計画、交通計画の考え方と検討の進め方

考え方

新庁舎整備を契機に、まちなかでの公共交通利用促進・交通円滑化等を先導

熊本市のまちなかでの交通施策	
① 公共交通利用促進	→2031年目標:利用者現況比+19%目標 →桜町をメインターミナルとする公共交通網再編 →市民等へ意識啓発活動
② 自動車交通円滑化	→特に水道町~市役所前~辛島町の公共交通軸
③ ウォークアブル推進事業によるまちなかの回遊性向上	→辛北道路歩行者空間化 →市民会館前道路の道路空間再配分

新庁舎整備において先導的に取り組む方策の例	
①	・来庁者・職員へ公共交通利用を促す環境整備や啓発活動 ・桜町バスターミナルのコンコース階と直結する動線の整備 ・区役所前へのバス停・電停の移設・新設・名称変更等 ・本庁舎と区役所等をつなぐ次世代モビリティの実験的導入
②	・DX等の推進による来庁・通勤機会の削減→交通需要減 ・既存駐車場の活用・連携による、新規整備台数の抑制 ・公共交通軸への負荷を低減する自動車動線(分棟・隔地)
③	・辛北道路の歩専化や市民会館側へのプロムナード延伸 に向けた熊本高森線改良や歩行者動線整備の検討

進め方

- 過度な台数整備を避ける駐車場計画の検討**
  - 適正な将来駐車台数の設定
    - 現状の利用実態の的確な把握。
    - 来庁・通勤機会の減少や公用車の効率化、隔地化を踏まえた台数検討。
  - 周辺既存駐車場の活用・連携
    - 辛島地下駐車場の余力活用と本庁舎との動線接続を検討。
    - その他周辺既存駐車場の需要特性を踏まえ駐車需要への柔軟な対応を検討(平・休日平準化、特例日対応等)。
- 公共交通の円滑化・利便性を最優先にした車両動線の検討**
  - 公共交通軸への自動車負荷を低減
    - 水道町~市役所前~辛島町を通らない本庁舎等への車両動線設定。
    - 熊本高森線に設ける出入口の十分な引き込み長確保等、バス交通へ配慮。
    - 南・西方面からの自動車には辛島地下駐車場出入口の利用を誘導。
  - 経験を活かした効率的・実効的な検討
    - 熊本の交通事情に精通したチームがこれまでの交通計画の経験を活用し検討。

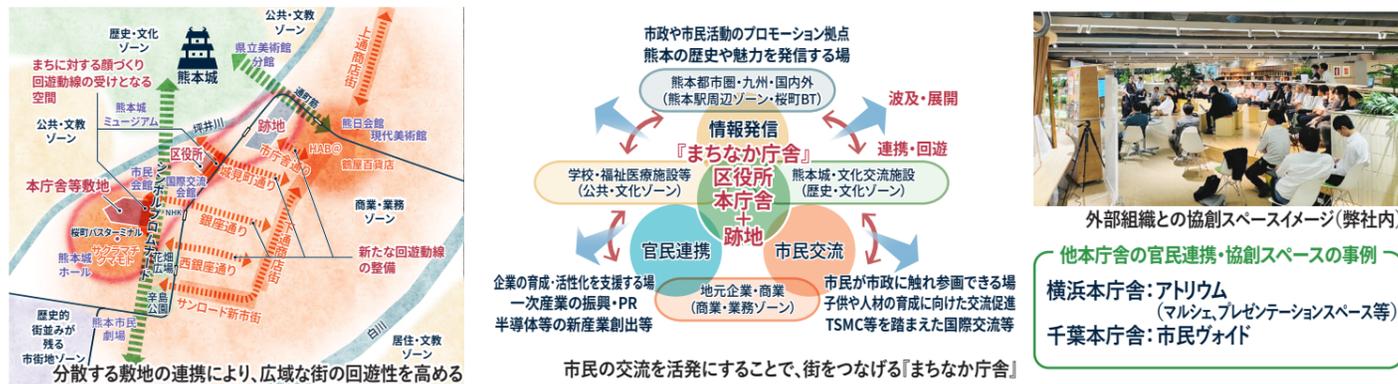
まちなかの魅力や回遊性向上に資する交通施策の検討

- ウォークアブル施策に貢献する熊本高森線改良も視野に入れた交通計画検討**
  - 辛北道路の歩専化や本庁舎等出入口設置で熊本高森線の負荷が増大→本庁舎等敷地の一部活用による市民会館前交差点や桜町交差点の改良検討等。
- 公共交通利用啓発のショーケース**
  - 求心力が高まる本庁舎で公共交通利用促進策をショーケース的に先導実施し、まちなかの魅力・回遊性向上につなげる。



(1) 市民交流・官民連携・情報発信の場として市民に親しまれる庁舎、さらにはまちづくりの核として周辺地域と一体となり賑わいの創出を図る庁舎についての貴社の考え方と検討の進め方

## 市民が開かれたまちづくりの拠点・まちと連続したアクティビティを誘発する『まちなか庁舎』



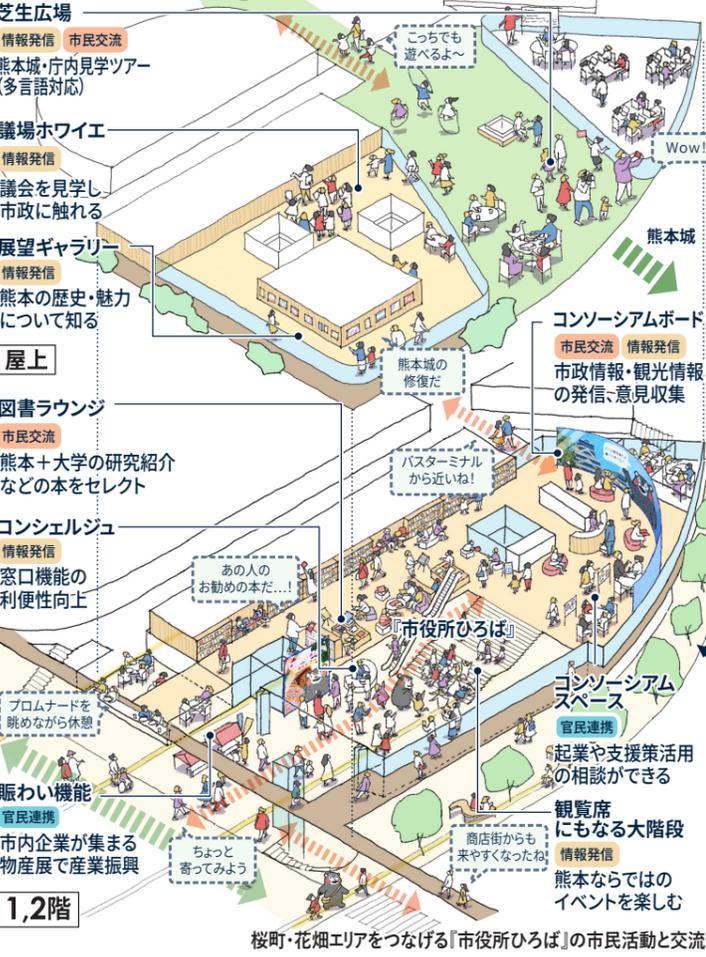
分散する敷地の連携により、広域な街の回遊性を高める

- 市民交流等の場として交通利便性に優れ都市機能が集積する立地を活かし、多くの市民来街者企業が訪れ交流できる機能空間が必要と考えます。
- また、周辺地域と一体となった賑わいを創出するためには各エリアとの回遊性向上に資する動線の整備や人の流れを受け止める設えが重要です。

### 本庁舎の考え方

#### 国内外への熊本・市政の情報を発信する『市役所ひろば』

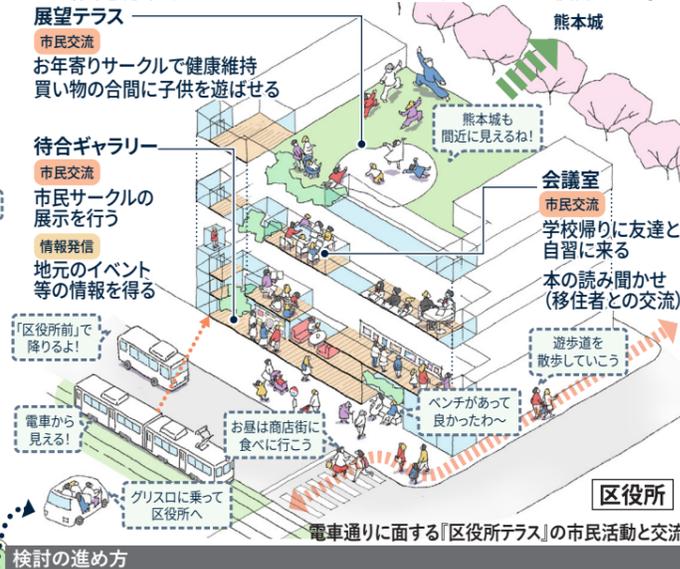
- 本庁舎は、市民・企業との共創により市政課題を解き、更なる発展を生む、「新しい公共」の姿を体現する場を目指します。
- 400年のまちの歴史を継承するシンボルプロムナードと屋外空間である花畑広場に対し、屋内空間の『市役所ひろば』を一体的に整備し、開庁時間や天候に関らず柔軟に利用できる設えを検討します。
- 『市役所ひろば』は、賑わい機能を導入し、桜町バスターミナルとの接続により市民や来街者が立ち寄る機会を増やします。来庁者の交流やイベントの場を創出します。
- 地元企業や大学・商店街等と連携した、将来を担う産業育成・起業支援、外部からの企業立地や出店・出資等を促すPRなど、企業の情報発信・相談ができる『コンソーシアムスペース』を検討します。
- 屋上には、熊本城が見える『芝生ひろば』と熊本の歴史・魅力等の情報を発信する『展望ギャラリー』を検討します。



### 区役所の考え方

#### 市民が集い、憩う、まちづくりの担い手を育てる『区役所テラス』

- 区役所は、多様なバックグラウンドを持つ市民ひとりひとりに寄り添い相談を受けることに加え、「まちの止まり木」として市民が集い様々な活動を通して、まちづくりの担い手を育てる場を目指します。
- 電車通りに面する待合・会議室ゾーン『区役所テラス』は、平日・休日に問わず市民や学生、子供たちが様々な市民活動や交流ができる場を検討します。
- 商店街の通りからのアイストップとなり、電停から見える『区役所テラス』は市民の活動が見え、街に賑わいを与えます。
- 本庁舎との相互連携のための行き来がしやすい歩道やわかりやすい案内サイン、交通施策(電停移設・名称変更・モビリティ等)についても検討します。



#### 質の高い共創の場を生む、多様なステークホルダーとの連携

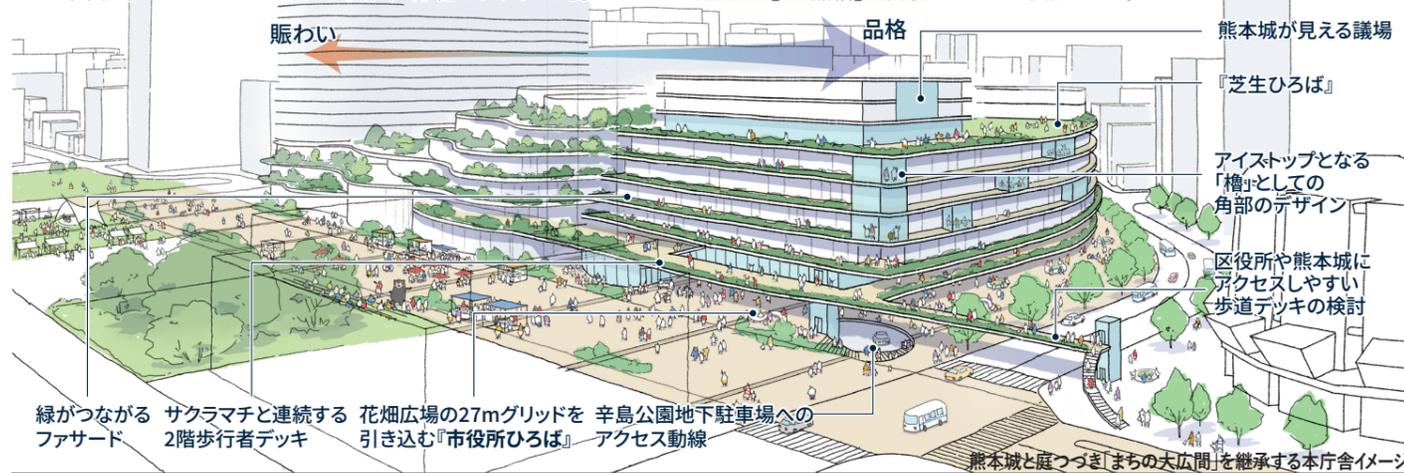
- 『市役所ひろば』『区役所テラス』のデザイン・運営方法等を検討します
- 有識者を交えたデザイン会議で、空間デザインや歴史継承・景観等を検討。市民や民間事業者・企業が参画する運営・事業スキーム等のWS等。
- 回遊性向上に資する動線整備や交通機能再編を検討します
- 商店街や交通事業者との意見交換・WS等により、まちづくりの起爆剤として周辺の建替え促進・機能更新に効果的な方策を検討。他業務検討や、既存調査(人流調査・空き店舗調査等)と連携し、影響や効果を検証。
- 賑わい機能の導入について調査します
- 他業務と連携し、周辺施設との連携方策や近隣施設との競合・役割分担に配慮し、事例研究や事業者サウンディングを実施。
- 更なる中心市街地活性化、賑わい・回遊性向上の手法を検討します
- 施設利用状況・商店街回遊・公共交通利用促進をセットにした「くまもとアプリ」等と連動するDXサービスの導入等も視野に各サービスと協議・検討。商店街で使えるポイント付与や人流計測によりサービス向上を図る。

## (参考資料4)

(2) 建設地の立地特性を踏まえた、熊本のまちなみと調和し、熊本らしさを感じられる、本市の景観形成に寄与する庁舎デザインについての貴社の考え方と検討の進め方

## 熊本城と庭つづき「まちの大広間」を継承し、まちの歴史・賑わい・緑を感じる『まちなか庁舎』

- 桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメントにおいて「水と緑と歴史が育む 賑わいと活力が湧くくまもとの景観づくり」が求められています。
- まちなみと調和した、熊本らしい景観形成の実現のために、「緑のつながり」「建物の稜線のつながり」「色彩や素材感のつながり」の視点で検討します。
- また、今後求められるサステイナブルな都市・庁舎のデザインの見点において「賑わい」と「品格」の調和をテーマに検討します。



### 本庁舎の考え方

#### 熊本城への眺望を大切にしたい庁舎

- 高さを抑え、建物をセットバックさせ、花畑広場からの熊本城への広い眺望を確保します。
- 屋上の芝生広場のレベルを低く抑え、芝生広場東西の棟をコンパクトにすることで、熊本城ホールからの幅広い眺望を確保します。

#### まちなみとの調和と、賑わいと品格を具現化

- 熊本城の石垣、サクラマチクマモトの稜線である地上約30mを屋上レベルとし、2階の歩行者デッキレベルを揃え、本庁舎の内外の環境に寄与する緑が連続する外観とし、花畑広場と共に親しまれるまちなみをつくります。
- 花畑広場と高森線の交差点「角部」には、熊本城や花畑広場を見渡す価値のあるスペースを設け、外観のアイストップになるデザインを検討します。
- 城下町の町割りモチーフにしたプロムナードの27mグリッドを『市役所ひろば』に引き込み、広場と一体感をもつ市民交流ゾーンをつくります。

#### 歴史を継承し未来につなぐ熊本らしいデザインの追求

- 花畑広場の大楠等の緑と熊本高森線沿い並木をつなげ、緑陰の歩行者空間を検討します。北側の山崎菅原神社の緑と視覚的につなげます。
- 素材色を活かした外装を選定し、市民の目に触れ、雨掛りのない軒天井などに熊本県産木材の使用を検討します。
- 議会・交流ゾーンなどの市民の目に触れる場所や内装・什器等に木材を効果的に利用し、親しみやすく熊本らしい空間を検討します。

### 区役所の考え方

#### 市民活動が電車通りから見える賑わいの風景

- 東の電車通りに面して、市民が利用できるスペース『区役所テラス』を設け、市民活動が街の風景となり、既存庁舎跡地と新庁舎をつなぐ「かなめ」として、まちの賑わいを連続させます。
- 周辺からの通り抜けやバス停の待合ピロティなど、市民の回遊性の向上に寄与する施設計画を検討します。
- 『区役所テラス』の軒天井にも熊本県産の木材を用い、本庁舎との一体性あるイメージ形成を図ります。

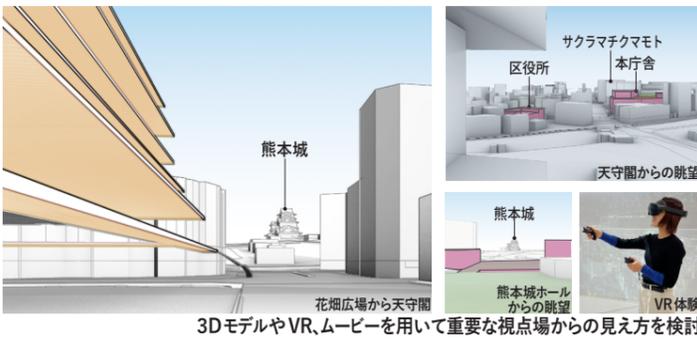
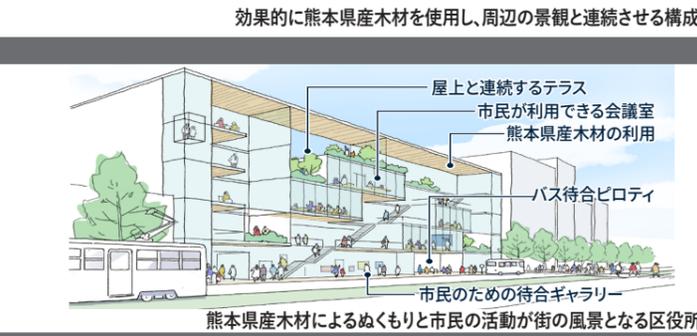
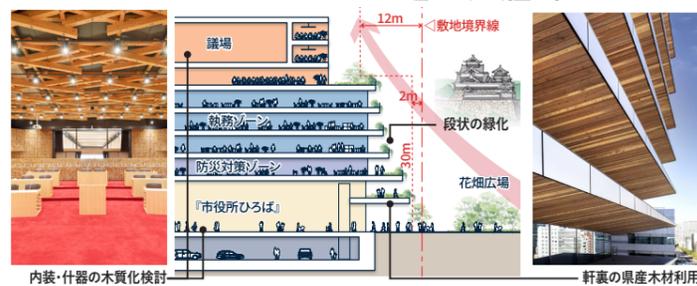
### 検討の進め方

#### 熊本城への複数の視点場を決め、ボリュームを検証

- 熊本城ホールおよびシンボルプロムナードからの視点場に加えて庁舎北東コーナー部を設定し良好な眺望を確保するとともに、天守閣から本庁舎およびサクラマチクマモトの見え方も、魅力ある景観形成に向けて検討します。
- 3DモデルやVR、ムービーを用いて景観の調和や眺望を確認します。
- 「景観調整会議」での有識者からの助言を活かした多面的な景観検討を行います。
- 市民に対して、模型や3Dモデル、VR等を活用し体験型の情報発信を行い、これからの熊本の景観を守り、育む取り組みの教材とすることを検討します。
- 熊本らしさを踏襲する県産材等の効果的かつメンテナンス性に配慮した材料選定、使用部位を検討します。

	case1 H50m	case2(DXにより全体面積が縮減した場合) H55m
ボリュームイメージ	H55m 議会ゾーンを屋上広場レベルに配置 熊本城へのビューを確保	H30m 議会ゾーンを低層ボリューム内に配置 屋上広場を市民に開放
サクラマチクマモト屋上広場からのビュー	熊本城	熊本城

サクラマチクマモトの屋上からの眺望を守るボリュームスタディ



(1) イニシャルコスト、ランニングコストを抑制するための、基本計画・設計手順等の考え方と検討の進め方

考え方

建築・防災・環境のバランスをはかる、最適なコストマネジメント

物価上昇下におけるコスト抑制を実現する5つのポイント

- Point1 コンパクト** 庁舎建築として必要最小限の建築・構造・設備計画
- Point2 DX** DX/ICT活用による必要十分かつ適正面積の庁舎
- Point3 防災** 安全性が高く、費用対効果が高い構造計画
- Point4 環境** ZEBと執務効率・快適性向上の両立
- Point5 LCC** ランニングコストの最小化と最適な維持管理

基本計画段階での3段階のコスト確認

基本計画で3段階の超概算を行い、概算工事費と連動した費用対効果の高い設計と件を選択します。基本・実施設計段階でコスト比較ができるようにします。

コスト分科会での定期的な建設市況情報共有と多面的発注戦略立案

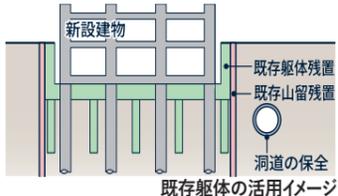
- 弊社は年間約1兆円の建築工事発注実績をもち、その豊富なデータを分析し、4半期に1度、建設市況を検証した「コストマネジメントレポート」を発行しています。
- 「コストマネジメントレポート」の発行に併せて、貴市と共に発注戦略を検討する「コスト分科会」を開催します。
- 「コスト分科会」では最新市況に基づく概算報告や、民間と官庁の単価比較、発注区分の調整、ECI方式やエネルギーサービス事業などの発注方式の検討を行います。基本計画から実施設計まで分科会を継続し、コストマネジメントから発注支援まで多面的なコスト戦略を提供します。

検討の進め方

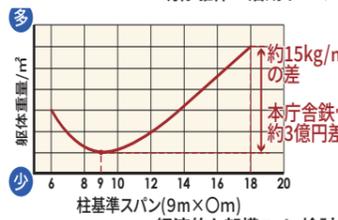
5つのポイントに基づき、建築市況にかかわらずイニシャルコストを抑制

Point1 コンパクト 庁舎建築として必要最小限の建築・構造・設備計画

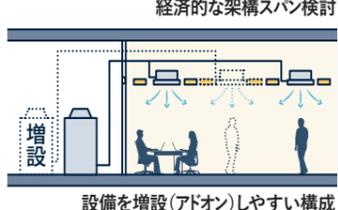
NTT 桜町ビル解体に先立ち、既存躯体の新築工事山留利用によるコスト削減の可能性を検討します。地下躯体利用はNTT洞道の保全にも有効であり、地下のプランニングを踏まえ、最も合理的な計画を検討します。



建設コストの内、比重の大きい躯体について、最も経済的な架構スパンを追求します。弊社構造グループの試算では、鉄骨構造の場合、9~10mスパンとすることで最も鉄骨量を抑えられることを検証しています。本計画でも庁舎用途を踏まえ、最も経済的な架構を検討します。



容易に空調/照明/換気を増設(アドオン)できる計画とすることで、実装設備を必要最小限とし、昨今高騰している設備工事費を抑え、LCC(ライフサイクルコスト)削減の手法を検討します。



平時は防災会議室を市民利用できるようにするなど、用途や空間のシェアとフェイズフリー利用検討し、面積の抑制を図ります。

Point2 DX DX/ICT活用による必要十分かつ適正面積の庁舎

面積について、国交省の「新営一般庁舎面積算定基準」や総務省の「起債対象事業費算定基準」とはならず、DXによる執務室・会議室の利用効率をあげ、加えて空間・用途のシェアなどを行う、必要十分な面積規模を検討します。



弊社にはDXを活用したワークプレイス構築の実績が多数あります。フリーアドレスやABWを活かし、空間をシェアすることで、移転前から人数比約12%の面積削減を達成した事例もあり、それらの知見をDXによるコンパクト庁舎の検討に活かします。

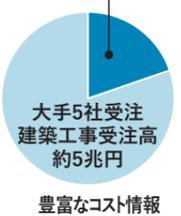
Point3 防災 安全性が高く、費用対効果が高い構造計画

防災性能と経済性・利便性のバランスのよい、免震構造を検討します。例えば、地下駐車場を活かした地下柱頭免震を採用することで、基礎を用いて合理的に駐車場が計画できます。また地下部分は必要最小限の範囲とすることで、山留や掘削量の軽減によるコスト削減策を検討します。

議会説明に活用できるコストエビデンスを提供

議会での工事費説明等に必要資料作成を的確に支援します。最新市況や他庁舎実績などのエビデンスと共に、確度の高いコスト資料を提供します。

コストマネジメントシェア約20%



コスト分科会での検討事項

1	『コストマネジメントレポート』に基づく最新の建設市況と今後の動向予測
2	最新単価による概算報告
3	他庁舎事例の共有(計画予算、契約金額など)
4	発注区分の検討及び、それに伴う経費率の調整検討
5	ECIやESも含めた発注方式の検討
6	ゼネコンへのサウンディング検討
7	予めVE/CDリストの検討
8	予算書作成時期と入札時期のズレで生じる物価変動を見越した単価設定
9	その他

Point4 環境 ZEBと執務効率・快適性向上の両立

多くのZEB認証建築の実績と知見を活かします。ZEB化にはイニシャルコストを要しますが、LCCの観点からそれを超えるランニングコストの抑制が可能な環境技術を提案・検討します。

熊本の豊富な井戸水を空調熱源や上水、雑用水として効果的に使用し、ランニングコストを抑制します。

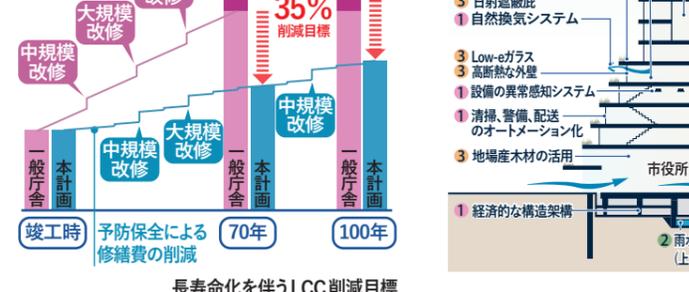
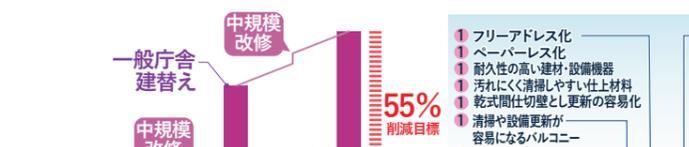
ZEB化を実現する為にも、「サステナブル建築物等先導事業(省CO2先導型)」などの補助金獲得を検討します。

弊社は次世代省CO2オフィスの研究を行っており、従来オフィスと比べ、ライフサイクルCO2を40%削減できる手法を確立しています。その知見を活かし、コスト削減に直接つながるCO2削減手法を検討します。



Point5 LCC ランニングコストの最小化と最適な維持管理

LCCの50~60%を占める保全・修繕費用が削減できる計画を重視します。「熊本市公共建築物長寿命化指針」に基づき、メンテナンスしやすいバルコニーの設置や、設備や外装の長寿命化、予防保全のしやすさを徹底し、70年の償却期間内の設備更新回数を減らすことを目指します。



長寿命化を伴うLCC削減目標

(2) 本委託業務において、新たな課題への対応が必要となった場合の、業務進捗管理及びコスト対応についての考え方と検討の進め方

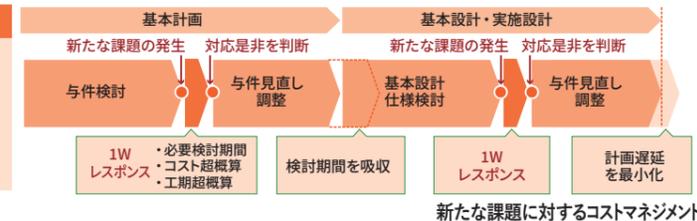
(参考資料4)

考え方

時代の変化や新たな課題に『1WEEKレスポンス』で対応し、計画の遅延を最小化

新たな課題に対応する『1WEEKレスポンス』の4つのポイント

- Point1 期間** 検討に必要な期間・作業量を提示
- Point2 コスト** 変更・追加に必要な超概算の提示
- Point3 工期** 課題がもたらす工期への影響の提示
- Point4 優先度** 竣工後でも対応できる可能性の提示



新たな課題の早期対応判断と計画の遅延を防ぐ1Wレスポンス

- 新たな課題が発生した際には、問題対応の是非や対応すべき時期について、貴市が的確に判断できる資料を迅速に提示します。
- 原則1週間以内に、検討にかかる時間と、コスト、工期を算出し、竣工時までにはすべからず、運用開始後に対応できるかを整理し、貴市の選択を支援する確かな資料を提示します。
- 基本計画着手時に、判断がつかず変更の可能性のある項目を予めヒアリングし、その変更を踏まえて検討を進めます。
- 新たな課題が発生した際は、JV現地事務所と連携し、迅速な対応を行います。
- クラウドサーバーによるデータ共有や、リモート打合せを最大限活用し、九州オフィスを中心に東京・名古屋・大阪オフィスを含めた全社一丸のバックアップ体制で課題解決にあたります。

貴市に寄り添う「よろず相談」メンバー

- 設計者とは異なる人格で、プロジェクト運営管理のあらゆる内容を相談できる『よろず相談』の担当者を配置します。
- 新たな課題が予測される初期段階での情報共有ができる体制をつくり、計画遅延を最小化します。
- 計画中に発生する別途業務や追加業務の相談など、プロジェクトに関わるあらゆる心配事に対して貴市の伴走者となります。



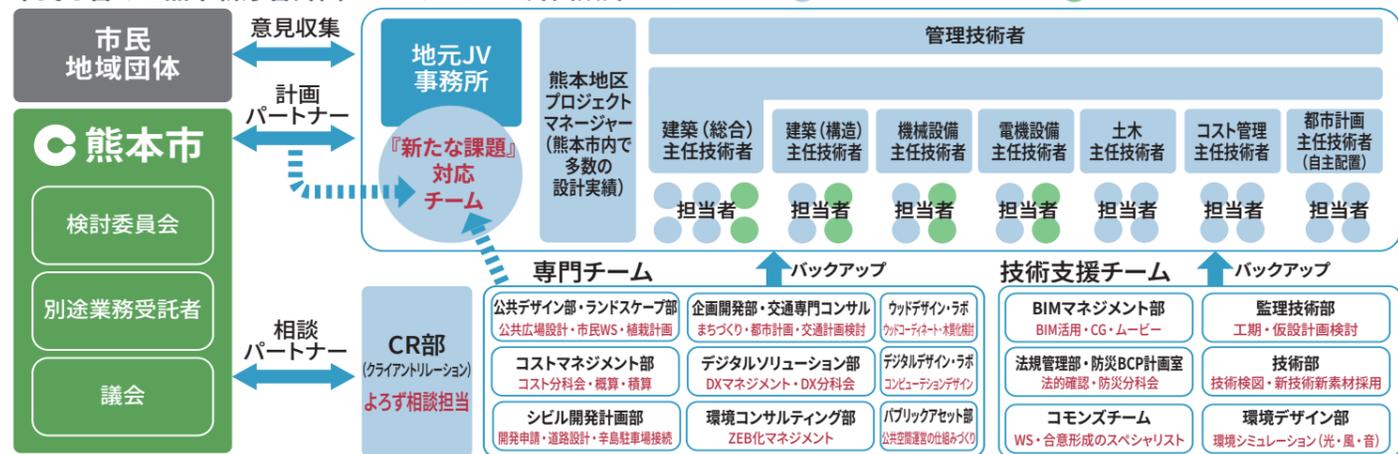
- ・タスクマネジメント相談
- ・突発的な課題対応緊急相談
- ・用語・法規の概要解説
- ・こんな事例ってない?
- ・別途業務に関する相談もOK
- ・こんなこと悩んでるんですが...etc

何でも相談できる『よろず相談』担当

検討の進め方

庁舎設計経験の豊富な幅広い領域の技術者集団が、様々な課題に的確に対応

市民も含めた熊本新庁舎計画のワンチーム



予期せぬ課題に対応する、余力を生み出す効果的なコスト抑制

- 予期せぬ課題に対応するために、本庁舎設計経験の豊富なあらゆる領域の専門家が連携し、課題解決に向けて貴市を支援します。
- 長期間のプロジェクトにおいて、予期せぬ経済状況の変化、地中障害、やむを得ない大きな設計と件の変更、予期せぬ課題発生などに対して、全社をあげて対応し、プロジェクト完遂に取り組みます。

課題解決には予算が必要となる場合があります。課題を乗り切る予算を捻出するため、イニシャル・ランニング・維持保全の観点からVE・CDの項目を事前に検討します。